

MfG_J_spring_in_Nagaoka_snow_trace_and_butterfly.ppt



新潟・長岡 雪国の早春 雪形、花、蝶

Mar, 2023 by Kasuga

新潟・長岡 雪国の早春

積雪と雪形、雪解けの川

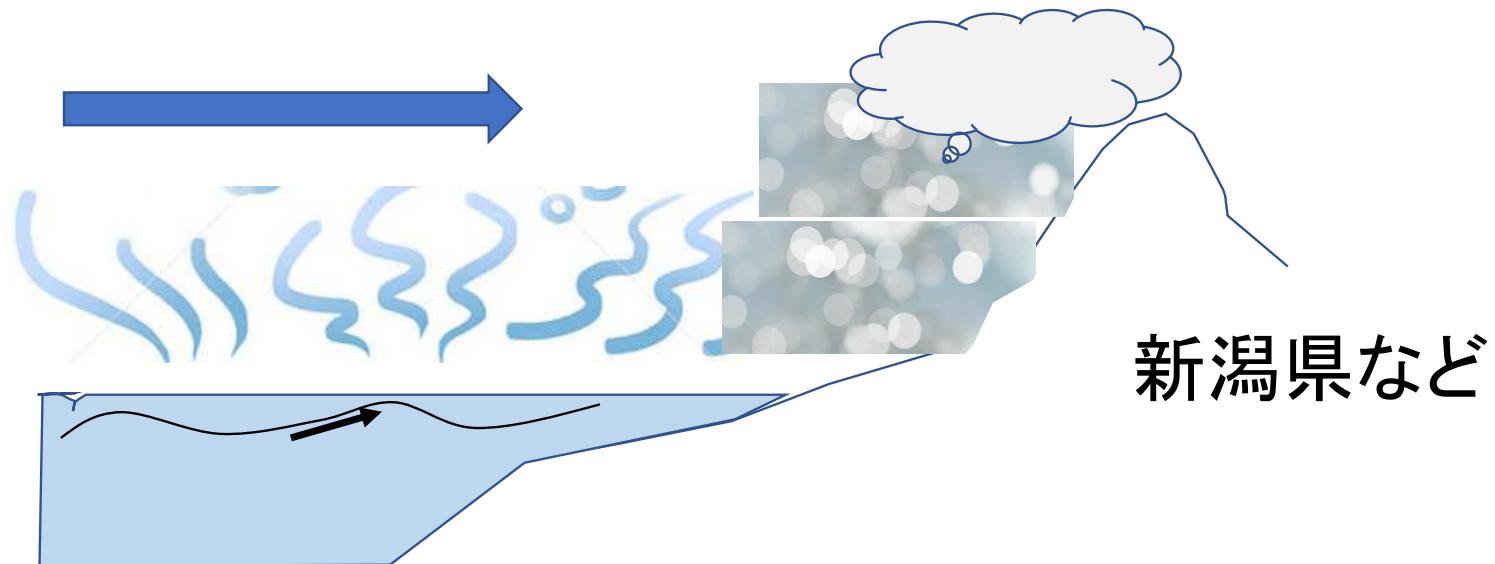
花木 桜、雪椿

草花 雪割草、ミズバショウ、カタクリ

蝶 ギフチョウ

降雪のメカニズム

- (a) 冷たく乾燥した大気団がシベリアから日本海にもたらされる。
- (b) 暖流の対馬海流が湿気を与える。
- (c) 湿った空気が、日本列島の高い山にあたり、上昇する過程で雪となり、降雪に至る。



対馬海流が日本海に流入を始めたのは、
最終氷期が終わった、約10000年前。
日本海に暖流が流れ込み、日本海沿岸も温度が上昇、
のちの縄文文化発祥のきっかけとなつた。

日本海沿岸地域の積雪も、冬は大変だが、
全般的に温暖、かつ雪解けの河川の水量が、
良い方向に作用したと言える。
さて、その雪が解ける春先の雪形です。

春先の雪解けで増水する河川も、普段と違う姿です。
摂田屋の近くを流れる太田川も、堂々たる流れに変身
します。

昔は寒造りの酒の出荷など、水運で賑わったことと思います。

鋸山の代表的な雪形の、『逆さ川』は、昔から種もみ蒔き開始という農作業のシンボルとして近隣に知られていますが、『ブレーメンの音楽隊』は、最近話題に上るようになったニューフェイスです。



見い出されたのは1996年、日本経済新聞で公けになつたのは2007年と、古くありません。

発見者は、うれしいことに、当時、悠久山の雪氷防災研究センタの研究員の職にあった方でした。



ロバ、イヌ、ネコ、オンドリ、
どこにいるか、わかりますか。



図5 「ブレーメンの音楽隊」 竹内由香里氏発見・命名・作画

この鋸山の『ブレーメンの音楽隊』のロバなどの雪形については、
2007年1月1日の日本経済新聞文化欄に記事が掲載されています。

下図は、以前にネットで入手した画像に
ロバを赤で追記したもの。



記事にいわれていますように、
「絵がなくて写真だけ見ていると
何とも思わないですが、
しばらくこの絵を見てから写真の
場所へ行くと、もうこれにしか
見えなくなってしまいます。」

何かと合わせたら、花火に負けない
ほどの隠れ・お国自慢の可能性あり。

しかし、最近は小雪のため、きれいに現れるのは数年に一度、ほんの二、三日になってしまいました。逆さ川がしばらく消えないのに、音楽隊は極く短期間しか見られないのは、前者のポジ(白の残雪)に対して、後者はネガ(雪が消えたあの地面や木々)ということも理由の一つかも知れません。

次に分解図を示します。

7頁と8頁を何度か、すばやく切り替えると、山だけの写真でも、ロバがはっきりと見えてきます。

長岡 鋸山の雪形

ブレーメンの音楽隊 口バと、その他の動物たち



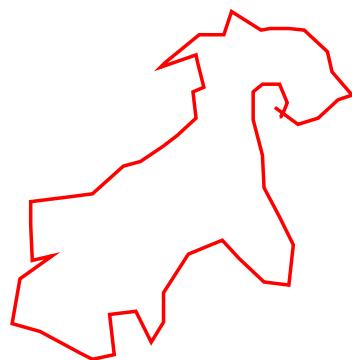
長岡 鋸山の雪形

ブレーメンの音楽隊 口バ



一番よく見える場所のひとつは、摂田屋辻です。
辻地蔵と道路を隔てて北側の歩道から。

「絵がなくて写真だけ見ていると何とも思わないですが、
しばらくこの絵を見てから写真の場所へ行くと、もうこれにしか
見えなくなってしまいます。」 まさに、その通り。



その秘密は。

脳が、そのように教育される

ロバやイヌ、ネコの雪形は、はじめはチンパンカンパンでも、何度か見つけますと、その後は、翌年でも直ぐに気づくようになります。

本当に、見れば見るほどロバにしか見えないように、そしてイヌも確かに見えるのです。

脳が、そのように教育されてしまうのです。

「脳の可塑性」

脳科学の難しい言葉でいうと、「脳の可塑性」(*1) という現象に過ぎず、繰り返し学習することにより、脳の神経細胞群が新たなネットワークを築き、一過性ではない持続的なネットワークが形成されるのだそうです。

(*1) 「可塑性」の塑性とは、弹性に対する言葉です。
弹性は、ゴムを引っ張ったり、板を少し曲げたときのように、力を除くと、もとに戻るような状態を言います。それに対して、塑性とは、もっと大きく変形させると、板が曲がったまま元の形に戻らないような状態を言います。
脳が、そのような解釈をするように変化する、ということです。

もうひとつ、人間の進化の過程で、こわいものへの危険察知能力の発達が、すぐ認識する仕掛けになったか

自分の脳に起こっている現象でありながら、あまりに簡単な反応でして、怖いようにも感じます。

「脳の可塑性」は、あまりにできすぎの話です。

もうひとつの追加の理由として、きっと、人間が進化する中で、あやしい動物、こわい動物の形には敏感に反応するような仕掛けが備わったためではないかと、独断ですが、信じています。

新潟・長岡の早春の花は、雪解けとともに、一斉に咲きます。

花木のうち、桜は、名所も隨所にあり、紹介は無用でしょう。

ここでは、雪椿。

雪椿 主に日本の太平洋側に分布するヤブツバキが、日本東北地方から北陸地方の日本海側の多雪地帯に適応したものと考えらる。変種、亜種とする見解もあるが。遺伝子的に別種される。

約 100 年前に新潟県阿賀町の麒麟山において(世界で初めて発見された。花期は地域にもよるが四月中旬から下旬。

花は深紅色で、5枚ある花弁は水平に開き、黄色い雄しべが立つ。

椿との見分け方は、花弁は水平に開くこと以外、諸説あるが、難しい。

小千谷、愛宕山の、国内最大級の雪椿の群生。
約1ヘクタールの全山、雪椿。
雑木林を、何年もかけて、
丁寧に間伐し、雪椿の群生に
仕立てた努力に敬服します。



草木も、雪割草、
ミズバショウは、
名所も随所にあり、
紹介は無用でしょう。
ここでは、カタクリ。
そして、それに群がり
乱舞するギフチョウは、
雪国の春の象徴です。



ところで、カタクリは、昆虫のセミより長く、
8年から10年かけて、ようやく開花します。
種は次の年の春に、松葉のような葉を伸ばして
光合成をします。鱗茎に養分を貯めて2週間ほどで枯れ、
その次の年になって丸い葉を出し、5月には枯れていく。
これの繰り返しで、徐々に大きな苗になっていき、
8年から10年かけて、ようやく開花するのです。



早春のギフチョウ

どこに、たくさん飛翔しているとは、敢えて言いません。
キフチョウは、商売目的の乱獲が激しく、関係者の
みなさんには、絶滅を心配しています。

何年かして、名所が公開されるようになることを、
切に祈っています。